

公益財団法人日仏会館 事業計画
2022年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

2022年度は日仏会館が公益財団法人として発足後12年目の年となる。また、2022年6月には理事の改選が控えており、新体制による始動の年となる。コロナウイルスの影響は足許のオミクロン株による感染拡大を受け、未だ収束の目途が立たず、コロナ禍以前の様にホール等を用いた対面のイベント開催が難しい状況が続いている。一方、コロナ禍という困難な状況下においてやむを得ない形で始まったオンライン開催によるイベントは、その運営方法についてこの間相当な知見を深めることができ、イベント開催のバリエーションが広がった。2022年度はコロナ禍収束の可能性も考慮しつつ、対面でのイベント開催を見据えて準備を進める他、日仏会館の立地に左右されずイベント参加者を獲得できるという利点もあるオンライン・イベントの一層の充実と、対面・オンラインの両面を活かしたいいわゆるハイブリッド開催のイベントも模索していきたい。この間、設備面ではオンライン・イベントの開催に必要な回線速度を確保するための新たなイベント専用インターネット回線を敷設したが、今後もイベント開催に必要な設備は順次整えて行く予定である。

日仏会館の財政基盤は、会費収入を始め、有価証券の運用や、不動産の賃貸収入に負っているが、コロナ禍により、ホール・会議室等のレンタル休止による減収や、比重の大きい有価証券の利金収入が、円安によるプラスの効果もあるものの、世界的な低金利状況を受け減収傾向にあり、早期の改善が見込めない状況である。そのため、安定的な収益確保が一層重要となる。2021年8月にテナント3室の退去があり収益悪化が見込まれたが、新たなテナント募集の結果、上記3室に加え、新たな1室を加えた計4室の入居が決まり、収益改善の寄与となった。今後も建物の有効活用は検討を続けたい。

以下、2022年度事業計画について重点項目を説明し、次いで具体的事業内容につき述べることにする。

ー重点項目ー

1. 会館事業の充実

コロナ禍のもとで培われたオンライン・イベントに関する知見を活かし、一層イベントの幅を拡充すると共に、コロナ禍収束後を見据え、対面開催やハイブリッド開催の方法も模索する。また、より広い年齢層の興味を引くイベントも検討して行きたい。

2. 日仏の関連諸団体との共同・支援事業

コロナ禍以降、毎年恒例の地方日仏協会との交流旅行や、新年会等のイベントは中止とせざるを得なかった。2022年度もまた、コロナ禍次第ということにはなるが、関係諸団体との連携強化は重要であるため、オンラインで出来ることも含めて模索しつつ、徐々に活動の幅を取り戻して行きたいと考えている。

3. 広報の充実

イベント告知冊子を新たに「Prochainement」として刷新したが、引き続き日仏会館ウェブサイト等の充実を図っており、定期刊行物の『日仏文化』については、更に進んだ電子化の方法を検討し、研究者を含む多くの方々への利便性を上げたいと考えている。会報「ヌーヴェル」、メールニュースの充実を図ると共に、SNSを活用した広報ネットワークの拡充に取り組んでいる。

4. 事務局体制の強化

事務局スタッフは、オンライン事業の拡充等、イベントの多様化によるマンパワー不足に対応するため、新たに事業担当職員1名を増強した。昨年末に退職した総務担当職員1名が欠員となっており、こちらは新規採用募集を進めている。引き続き各職員のスキル向上等を図る予定である。

5. 個人・法人賛助会員増加策の検討

財政的基盤の強化には、個人・法人賛助会員の増強並びに寄附金の増強が不可欠である。個人・法人賛助会員ともに漸減傾向が続いており、これに歯止めを掛けるべく、賛助会員優先の特別講演会や、会員に魅力のあるイベント・セミナーの開催、また新規会員・賛助会員獲得の為の勧誘活動を進める。また、2024年の創立百周年を視野に入れた寄附金増強策の検討を開始する。

6. 創立百周年記念事業準備委員会の本格的始動

常務役員を中心として、日仏会館・フランス国立日本研究所や各分野の専門家とも協力をしながら準備会合を重ねている。『日仏文化』百周年記念号の他、記念イベントの計画を検討している。2024年に向け、具体化を進めていく。

ー具体的事業内容ー

1. 公益事業 1：日仏両国の文化・学術研究に関する交流促進及び講演会・シンポジウム・出版物等を通じた研究成果の普及事業

(1) シンポジウム・文化講座・科学講座

①日仏シンポジウム

「ボードレール—詩と諸芸術 芸術照応の魅惑 V」(6月18日(土)、19日(日))

アントワヌ・コンパニョン(コレージュ・ド・フランス名誉教授)、アンドレ・ギユイヨー(ソルボンヌ大学名誉教授)、ジャン＝リュック・ステンメッツ(ナント大学名誉教授)、アンリ・セッピ(新ソルボンヌ大学)、オーレリア・セルヴォーニ(ソルボンヌ大学)、アンドレア・スケリーノ(ローマ第三大学)、岩切正一郎(国際基督教大学)、海老根龍介(白百合女子大学)、畠山達(明治学院大学)、三浦 篤(東京大学)、中地義和(東京大学名誉教授)、鈴木和彦(明治学院大学)、鈴木啓二(東京大学名誉教授)、富成信(群馬県立女子大学)、吉田典子(神戸大学名誉教授)、吉村和明(上智大学名誉教授)、平野啓一郎(作家)、中島淑恵(富山大学)、他

「フランスと日本の産業遺産：その活用への歴史的、社会的、経済的視点」(秋開催)
日仏会館・フランス国立日本研究所主催、(公財)日仏会館協力

②日仏文化講座

・「これからの民主主義を考える」(秋開催)

宇野重規(東京大学)、吉田 徹(同志社大学)、片岡大右(評論家)、重田園江(明治大学)、川出良枝(東京大学)、山元 一(慶応義塾大学)

・「中世・ルネサンスのテキストとイメージ、写本から揺籃期本へ」(2月頃)

③日仏科学講座

「新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のもたらしたもの」

丸山達也(東京大学)、庄野真理(産婦人科医)、吉田パスカル(元パリ大学救急部)、坂元昇(川崎市立加護短期大学学長/川崎市健康福祉局医務官)、松田晋哉(産業医科大学)(予定)

(2) 日仏文化講演シリーズ(月例講演会)

日仏文化に関連する多分野のテーマで年間13回程度開催。

・憲法講演会(5月27日(金))

申惠丰(青山学院大学)

・「渋沢栄一と朝鮮半島」(7月11日(月))

鎮目雅人(早稲田大学)、金明洙(韓国・啓明大学)、矢後和彦(早稲田大学)

・加藤周一記念講演会

松浦寿輝(作家、東京大学名誉教授)

・おしゃべりナイト「香り文化—食す・纏う(装う)・漂わせる」

原 美智子(長谷川香料(株)総合研究所 フレグランス研究所部長)

・フランスにおける狂言文化(2023年1月～3月)

小笠原由祠(狂言師)、小笠原弘晃(狂言師)

この他、ミシェル・セール関連の上映、つのゆいこ講演会等を企画中。

(3) 音楽会・レクチャーコンサート

①フランス音楽の夕べ *共同主催：日仏音楽協会

ボードレールシンポジウム関連コンサート(6月2日または3日)

東誠三(ピアノ)、三ツ石潤司(ピアノ)、駒井ゆり子(ソプラノ)

楽曲解説 鈴木啓二(東京大学)・野平一郎(東京芸術大学)

②レクチャーコンサート

「スペクトル楽派の作曲家たち～1970-80年代のフランス音楽」(5月11日(水))

野平一郎(東京芸術大学)、大石将紀(サクソフォン)、藤原亜美(ピアノ)

- ③映像と講演 *共同主催：TMF 日仏メディア交流協会
映画上映・講演会を年3回開催。

(4) 教養講座等

①日仏会館教養講座

連続4回の教養講座を年1回開催。

②食文化講座「学んで食べる文化講座—食文化版ツール・ド・フランス」

フランス各地方の食文化や背景を学びつつ、その地の名物料理を堪能することを目的にした講座を年2回開催。

③若手ビジネス講座

名称、開催方法を変更して開催予定。

(5) ギャラリー展示

なし

(6) 出版・広報・ウェブサイト関連

①『日仏文化』：第92号並びに日仏会館創立百周年記念特別号を発行。電子化の検討。

② ニュースレター「NOUVELLES」：年3回発行。

③ イベント告知冊子「Prochainement」：年5回発行。

④ ウェブサイトの運営

⑤ メールニュースの発行

⑥ SNS (Twitter)、日仏会館 Youtube チャンネル、日仏会館 Peatix サイトの運営

2. 公益事業2：日仏両国の文化・学術研究に関する作品の公募、表彰及びフランス語コンクールを通じた、文化・学術の振興を目的とする事業

- (1) 洪沢・クローデル賞（第39回）*共同主催：読売新聞社（日本側）、EHESS・日仏財団（仏側）
日仏両国においてそれぞれ相手国の文化に対する研究成果を示す優れた著作や翻訳書を選んで授賞（日本側は本賞・奨励賞の2種類）する。

(2) フランス語コンクール（第14回）

フランス語スピーチコンテスト。11月に決勝大会ならびに授賞式。

3. 公益事業3：日仏両国の文化・学術研究、教育に従事する団体等との共同事業及び同団体への研究推進を支援する事業

- (1) 日仏春秋講座 *共同主催：日仏会館・フランス国立日本研究所

「タイトル未定」（5月14日（土））

フィリップ・デスコラ（コレージュ・ド・フランス）、山極寿一（京都大学前総長）

司会 森山 工（東京大学）

(2) 日仏学術研究助成

①学術研究助成 3件

日仏社会学会「コロナ禍と学生生活に関する社会学的研究—日仏比較」

研究代表者 荻野昌弘（関西学院大学、日仏社会学会会長）

日仏哲学会「ジャン＝リュック・ナンシーの哲学——共同体の思想、世界の意味」

研究代表者 西山雄二（東京都立大学）

中島智章研究グループ「パリの歴史的建造物の建築再生—日仏交流の視点から—」

研究代表者 中島智章（工学院大学）

②研究者交流助成

- ・日本フランス語フランス文学会 ウィリアム・マルクス氏招聘
研究代表者 関 未玲
新型コロナウイルス感染症のため 2021 年度から延期になった助成
- ・日仏女性研究学会 クリスティーナ・バール氏招聘 2023 年 3 月
- ・渡邊浩司グループ フィリップ・ヴァルテール氏招聘 2022 年 9 月
- ・三浦信孝グループ フロラン・ゲナール氏招聘 2022 年 6 月

(3) 日仏関連学会連絡協議会

日仏関連 27 学会との情報交換の会合を 2 回（6 月・12 月）開催。

(4) 日仏文化・学術・教育団体等との共同事業・施設貸与

日仏会館・フランス国立日本研究所、日仏関連諸学会、アンスティチュ・フランセ日本等日仏文化・学術・教育団体や、日独協会等国际交流団体との共同事業のほか、それら団体が主催するシンポジウム・講演会等事業のためホール、会議室、研究室等を提供。

4. その他事業

(1) 地方日仏協会との交流

定例の各地日仏協会との交流旅行の他、各地日仏協会との交流を推進する活動を積極的に行っていく。

(2) 親睦会

新年会・歓送迎会等を予定。

5. 収益事業：公益目的事業に資する財源確保のため、会館内スペースの賃貸及び公益目的使用時間外の会館施設の貸与事業

店舗スペース賃貸並びに公益目的使用時間外のホール・会議室・ギャラリー、駐車場スペースの貸与。

6. 管理業務

(1) 2022 年度会議の開催（予定）

- ・理事会 ①2022 年 5 月 25 日（水）
②2022 年 10 月 28 日（金）
③2023 年 2 月 22 日（水）
- ・評議員会 ①2022 年 6 月 10 日（金）
②2023 年 3 月 10 日（金）
- ・常務役員会（月例）
- ・委員会：学術・文化事業委員会（月例）、総務委員会（月例）、渋沢・クロード賞委員会

(2) 役員等名簿（2022 年 2 月 1 日現在、敬称略、abc 順）

総裁 常陸宮殿下
名誉総裁 駐日フランス大使 Philippe SETTON
名誉理事長 福井憲彦、樋口陽一、松浦晃一郎
顧問 小林善彦、三浦信孝
理事長 中島厚志
副理事長 中地義和、柳井 準
常務理事 川出良枝、三浦 篤、西 昭宏、澤田 直、渡辺真美、山元 一
理事 林 洋子、平野千果子、中江剛介、大村敦志、大野博人、小田部陽一、
Christian POLAK、杉山直人、塚本昌則、山本博幸、吉澤正浩
監事 五十嵐敬喜、河口淳子
評議員 飯村 豊、岩田 誠、Muriel JOLIVET、金澤千鶴子
北島元治、北村一郎、Stéphane MARTIN、中川正輝、西川 恵、西永良成、
岡 眞理子、岡本和夫、塩川徹也、杉浦 勉、滝澤 正、辻村みよ子、渡邊啓貴、
横山悠喜、吉井篤志
諮問委員 Jean BARTHELEMY、Jérôme BRUHAT、Hubert De MESTIER Du BOURG、
Laurent DUBOIS、磯村尚徳、北原 隆、Michel LACHAUSSÉE、
Norbert LEURET、村上隆男、中江利忠、小倉和夫、老川祥一、大井 孝、
為永清嗣、Bernard THOMANN、梅本和義

以上